

大阪歯科大学 兵庫県校友会会報

第 13 号

編集兼発行人 村井俊郎

新 医 学 士 三 十 五 名 を 表 彰

兵庫県校友会昭和三十五年定時総会が六月五日午後三時から兵庫会館ホールで開催された。

慶典理事の司会によって始められ、名田副会長の開会の辞について、奥野会長が日歯の現況、社会保険の情勢、大歯本学の運営などについて細部の説明を行ない、一層校友会会員諸氏の団結を要するむねのあいさつがあり、次いで物故会員に対する黙祷が行なわれたあと定款にしたがって奥野会長が議長となり議事が進められた。

報告事項に入るとまず内海理事が庶務、村井理事が広報、澤井理事が会計、浜田理事が福祉厚生、大浦理事が渉外、永津理事が学術と各担当理事によって詳細な各報告が行なわれた。

引続いて本年度学位獲得者に対して奥野会長から表彰状と記念品が贈呈され、宮井副三郎氏が被表彰者を代表して、学位獲得は決して個人の努力だけでできるものではなく本学の教授はもろもろであるが、本校友会のバックがなくては成果が挙げられなかった。この点で私達兵庫県育った校友会員としての誇りを持っている旨の謝辞が述べられ、このあ

会長から記念品を贈る

兵庫県校友会総会で

兵庫県校友会昭和三十五年定時総会が六月五日午後三時から兵庫会館ホールで開催された。

慶典理事の司会によって始められ、名田副会長の開会の辞について、奥野会長が日歯の現況、社会保険の情勢、大歯本学の運営などについて細部の説明を行ない、一層校友会会員諸氏の団結を要するむねのあいさつがあり、次いで物故会員に対する黙祷が行なわれたあと定款にしたがって奥野会長が議長となり議事が進められた。

報告事項に入るとまず内海理事が庶務、村井理事が広報、澤井理事が会計、浜田理事が福祉厚生、大浦理事が渉外、永津理事が学術と各担当理事によって詳細な各報告が行なわれた。

引続いて本年度学位獲得者に対して奥野会長から表彰状と記念品が贈呈され、宮井副三郎氏が被表彰者を代表して、学位獲得は決して個人の努力だけでできるものではなく本学の教授はもろもろであるが、本校友会のバックがなくては成果が挙げられなかった。この点で私達兵庫県育った校友会員としての誇りを持っている旨の謝辞が述べられ、このあ

弔慰金一千元に決る

校友会家族死亡の場合

九月二十九日開催された理事会で死亡したときに弔慰金として一千元が賜られるという規定を制定した。

お校友会員本人の死亡の場合には従前通り一千元であるが、各地区の支部を通じて賜られることになり、親族の死亡者があつた場合は速やかに支部長まで連絡して下さい。

- 藤本治園(28) 滝口宗雄(26) 小原英治(29) 岡野博郎(大2)
- 八竹良清(23) 足立維(26) 山田早苗(大1) 吉田肇作(20)
- 岡寿雄(9) 河原道夫(24) 吉本二郎(憲) 以三十五名
- 岡本源一(24) 岩間 宏(17)
- 木下祐宏(大2) 藤本和夫(32)
- (順不同)



秋の東尋坊 堀家吉夫

単価問題について

大歯兵庫県 奥野半蔵 校友会会長

際火親しむの候がやってきました。きないしまた再考を促さねばならぬ。各地で学会が催されます。新らしい研究発表が成され、新工夫の技術が、つぎに公表されて、歯科界は十一月の終りまで忙しくなります。かて加えて重大な単価問題が各位の心を奪っています。これを現しなくては国民所得倍増論から医療担当者だけが乗り遅れる事になり、社会の落伍者となり、九部の経済成長率と取り組んで行か、何年ものままで、三十三年十月八・五%、実質一円値上げでは浮かばれません。ただこれを取り引きの具にしている。予算は国家的政治を現わすものだとすれば、国家予算のあ

あり、それが社会通念であり、思議でない。いたずらに点数の合理化、増点だけにまかしておくべきでない。堂々と単価の値上げを叫ぶべきである。あまり孤疑したり、漫漶すべきでない。

そこで日歯では所得倍増論に準じて、取り組むべき年次計画を立てた。現状では保険概念上の医療進歩取入れ不可等々の点で、政府にその誠意を問いつつ、実現方法を要望して、医療保障の実を得たい。国民として日歯歩の医学を均等に給付せしめたい。そのため、即ち一九四〇〇の根拠は三十二年九月当時全国二百二十診療所を無作為抽出し、その実態による数値と、奨励九時一分を七時間と補正し、正行得たものであるが、時代の

が新理事に就任することを決定した。

昭和三十五年四月三十日 常任理事会より

昭和三十五年五月二十一日 昭和三十五年六月五日 会館

(協議事項)

一、定時総会に関する件

種々意見が交わされたが、開催日時、その他一切を会長、副会長一任と決定した。

二、交歓旅行会に関する件

本旅行会実施に際しては、委員制が採決され、選挙の結果左の十一名に決定した。

旅行会委員：内海正、津島大、越村登志彦、岡田輝雄、澤井三代次、岡田一三、小野藤、井上文雄、大浦波夫、名田昌弘氏、以上十一名

昭和三十五年五月二十一日 会館

(報告事項)

一、大学院基金に関する件(澤井理事)

二、交歓旅行会に関する件(岡田理事)

(一)本旅行会の会費は本人、家族とも一千元で、本会から五百円の補助を行なう。

(二)本旅行会は七月十六、十七日の二日間、わたって行なわれ、場所は城崎日山金波渡と決定した。

昭和三十五年五月二十八日 会館

当日は総会に関する件が種々討議されたあと、石川一雄氏(姫路)小北博文氏(播磨)の両氏

ローズで磨く...

そこに
かくれた
オシャレがある
ピチピチした
若さの
あたらしい魅力
そのポイントはお口もと
バラが開くような
夢みるくちびる
輝く歯なみ
そこに
バラの息吹が香る
すばらしさ

50円・100円

青春の味・青春の香り...ピンクの歯磨

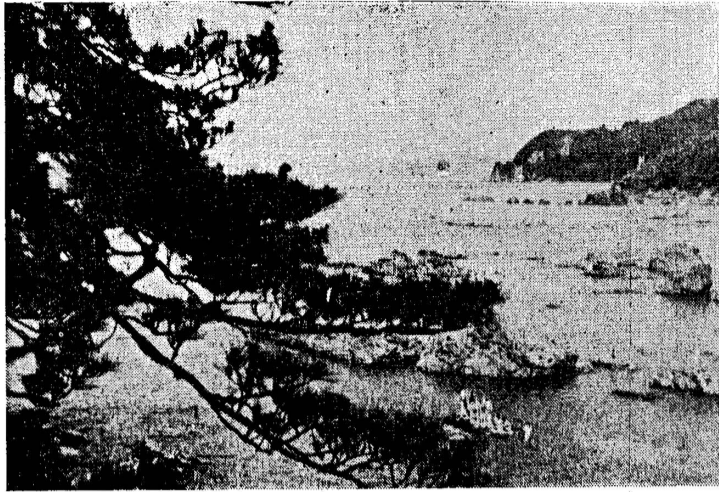
発売元 堀野義興株式会社
製造元 サンスター歯磨株式会社

百有余名の参加で盛況

本学から吉崎学長も出席

大歯大交歓旅行会

恒例の兵庫県大阪歯科大学校友会との顔も校友ばかりの有様を呈す交歓旅行会が但馬分会の奮闘に...



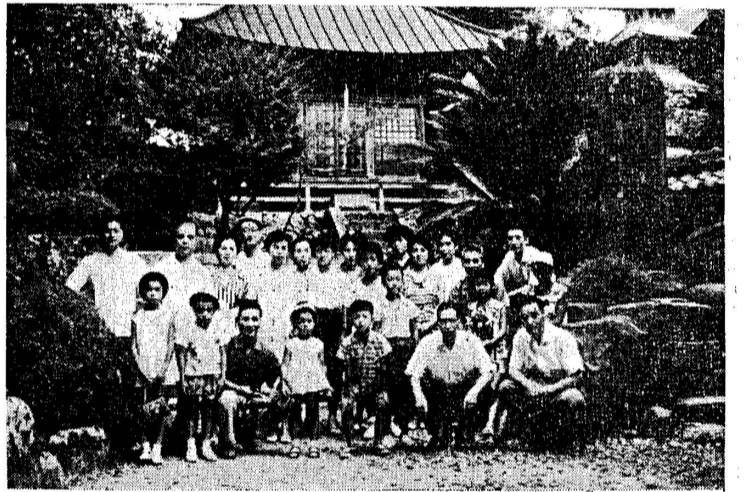
写真は日和山海岸

酒の炎に顔を赤めて語り合う者なご会場はおののグループに分かれつつも校友の親睦からにじみ出た口では表現することの出来...

涼を求めて親睦会ひらく

但馬分会で新しい試み

大歯校友会兵庫県但馬分会は、涼を求めて、忙中静を求めて古刹と園壘をひい八月二十一日新しい試み...



写真は但馬分会のリクリエーション

想 躍進途上の大歯本学

間近い海外への進出

磯島 吉之 祐

五十年の歴史を誇る大阪歯科大学しも抑されぬ大歯校友会とし、基礎を築き上げる任事は並大抵の歩んで来た道は次の道でもあり...

して過去において大切だったことが小さな問題となり更に現在の要望と将来の進路に際するため常に互に助け合い乍ら校友会は進んでいく。

団結の力

後半に近づくに従ってひびひとしたら、結集させる増収力が大切である。と大歯の優勝を半信半疑で信する人々...

野球は九人ですものではない。監督、コーチ、選手、そしてファンの目。野球は九人ですものではない。監督、コーチ、選手、そしてファンの目...

Advertisement for 'Softon' (ソフトン) dental resin, featuring a product image and technical specifications. Text includes 'GC New Era Series' and '義歯床の安定、維持力の強化'.

Advertisement for 'Sanjin' (三金) dental products, featuring a large 'S M P M' logo and contact information for '三金歯科金属株式会社'.

座談会 今と昔のあれこれ

各世代が語る校友会発展史

学閥の厳しさを披れき

興味わく阿部氏の回顧

日本の歯科医政で大歯校友会の動きを無視しては何事も運営ができません。話を聞く、それほどわが校友会の力が歯科医政に対して強力なキーンポイントとなっている。

しかしこのような校友会に発展するまでにわれわれの先人は過去において幾多の涙と苦しみを経験したのだ。

兵庫県校友会においても竹中氏を中心としたいわゆる先覚者の苦勞が現校友会の大きな礎石となっている。

そこで戦前派である阿部氏、大浦氏、戦中派の遠谷氏、戦後派の中村氏と各世代の人々にお集まり願って兵庫県大歯校友会の昔話や現在への希望などあれこれ話をききたんなく話して戴くことにした。



阿部 勉氏

- 出席者**
- 阿部 勉 (専5)
 - 西宮市 開業
 - 大浦 波夫 (専18)
 - 兵庫区
 - 達谷 喜信 (専23)
 - 灘区
 - 中村 博司 (大3)
 - 生田区
 - 司会 宮井 鍾三朗 (専26)



達谷喜信氏

若い人の進出を期待

司会 昭和二十四、五年から校友会も軌道に乗ってきたと思うのですが、新入生の歓迎会、交歓旅行会などはどうなりましたか。

阿部 交歓旅行会は私で、新入生の歓迎会は小野君が立案したのです。

達谷 竹中選挙の意図もあって、事業も活発になったのです。司会 達谷先生には新入生歓迎会、交歓旅行会などはどうなりましたか。

阿部 はい、プロの芸能人をお招きして、いろいろありますが、あれはもうルートですか？

達谷 ジャッキーが私の患者で、そのヒモをたぐっていま入生歓迎会は小野君が立案したのです。



大浦波夫氏

阿部 昔の話ですが、四回卒で世話になっていましてね。

大浦 それは阿部先生の薬力でおかいですね。

阿部 私たちの若い時代、歯科医学生はいまの医学博士よりもよく名刺にも、表札にも大きく書いたものでした。

大浦 私たちは校門と宮岡と一橋だった時代で、帰ってきたときに校友会の才助立がすべてとどろいてたので少しも肩身が狭い思いはありませんでした。

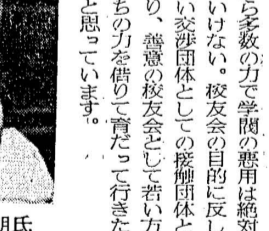
阿部 私たちは若い時代、歯科医学生はいまの医学博士よりもよく名刺にも、表札にも大きく書いたものでした。

学閥の悪用は禁物



中村博司氏

中村 自分だけで一人前になつたつもりでも、やはり会に出るにはできません。そして私も大歯校友会がなければ仕事ができないと感謝しています。どんな若い人たちが出てきて、校友会に力をつけているのか、中央にも現在では大歯校友会そのものの力が感じられておられます。



宮井鍾三朗氏

達谷 他府県の役員が二、三年前にバイバイゲームに出て、当時の時事問題を解答できず落胆したが、竹中氏、奥野氏は当時でも非常によく勉強していましたね。

大浦 さきにもいったように兵庫県では大歯出身者がたくさんいる、他との接触も非常に多い

阿部 医政に対して近ごろは関心ができました。私たちの時代は役員になると損みたいにいわれていたが、いまは健康が生活に結びついているから役員になる人はすまじいという気持ちもわいてきています。

また第一次の準備問題が持ち上る前だから、昭和十五年、六年頃のことだ。たかと思ふ。はじめて日歯の定時代議員会へ編集取材に出掛けました。

丁度この会議は役員選挙をかかえ、また任保問題がようやく騒然とした状態をほんんとで始めていたときだけに熱っぽく緊張感がたぎっていた。記者席にいた私ははじめて見るこの舞台の様態をできるだけ詳細に呑み込もうと眼と耳とをフル運転してエントツを走らせていた。

一旦休憩となったときである。私のデスクへ竹中先生が来られて「君も見て分るだろうが、この七十名余りの代議員のうちにもかなりの校友が居られる。君らは当然だと思ふかも知れないが、ボクにしてみれば感慨無量だよ。昔ボクがはじめて日歯の代議員としてこ

こへ来たときには大歯出の者はまあ二、三人だったんだから。うちの学校もこれまで古くなったというところね」と話しかけられたと、その後の色んな場面が印象的だ。

校友は人生の友

村井俊郎

出として私にはよみがえって来る。

そういえば来秋は五十周年を迎えるのだ。一口に五十年といっても半世紀のことだから、人生にたとえれば風雲に

中でも最も大きいものである。校友が互に仲良く団結して共通の理想に向うことは人生の生き甲斐の一つでこそあれ、決して学閥云々の言葉で問われることではない筈である。

話は別だが早稲田出身の有名な作家は早稲田で母校が取れるとヤケ酒を飲んで一週間は筆を折るといふ。

こんな感情は学閥以前の人間本来の素朴な美しさであろう。学閥に結びつけてモノをいう人は、学閥を利用して事をたくらむ手合いか、または何も学閥に結びついていないのに、それをさもそれらしく

放り出され、南洋まで飛び、後日オレの思ふ通りだ。と満足し、一けるようになったときの三度です。画面の広い人の話しを聞くことが、役員のはしこれに会へコマン、アアイウフエ、考えんとアされる。またオレはアカンと思ひカンネンアとがくんとくる。弟も話したのだが、私は大人になつたときと感したことが三度あつた。一度目は毛が生えて柔道初段になったとき、二度目は戦時とを自分で考える訓練ができるので隊長、隊長といわれたとき、三度 事実自分で考えねばいけません。目標は開業して自分の腕で食って行かん。

阿部 昔の話ですが、四回卒で世話になっていましてね。

大浦 それは阿部先生の薬力でおかいですね。

阿部 私たちの若い時代、歯科医学生はいまの医学博士よりもよく名刺にも、表札にも大きく書いたものでした。

大浦 私たちは校門と宮岡と一橋だった時代で、帰ってきたときに校友会の才助立がすべてとどろいてたので少しも肩身が狭い思いはありませんでした。

阿部 私たちは若い時代、歯科医学生はいまの医学博士よりもよく名刺にも、表札にも大きく書いたものでした。

- 開会の辞
- 副会長講演 九・三〇〇 九・四〇〇
- 大・会 九・四〇〇 一・一〇〇
- 会長講演 一・一〇〇 一・三〇〇
- 講演三題 一・三〇〇 一・四〇〇
- 九・四〇〇 一・五〇〇
- 第一会場演題及び演者
- 一、予防的見地から見た歯槽膿漏患者の唾液緩衝能 柳生 嘉雄 (口腔衛生)
- 二、上顎洞と歯牙との関係 白敷美輝雄 (第一口腔解剖)
- 三、(貯蓄) 盲腸・病的肉腫(附近の鏡下所見) 小野寅之助 (口腔病理)
- 四、各種バクテリアオリザートの歯槽膿漏症病巣の微生物に対する作用に関する研究 和 片山 有夫
- 梅本 芳夫 森政 勇 中尾 俊一
- 佐川 寛典 並河 勇
- 副会長講演 松岡 昭三 (細菌)
- 副会長講演 反射学説 関根 道夫
- 即時重合レジン充填に関する未解決な 会長講演 二、三の事項について 坂 瑠
- 五、盲腸の処置 福地芳則 (口腔治療)
- 六、歯槽膿漏症の外科的処置 福地芳則 城山剛彦 木下佐安 (口腔外科)
- 七、歯槽膿漏患者と義歯 中村 俊一 (補綴)
- 八、歯周組織疾患の遠隔観察 特別に歯槽膿漏を中心として 松島 税 (レントゲン)
- シンポジウム 漏膿問題について
- 司会 北野 信治
- 講師 小野寅之助、白敷美輝雄、柳生 嘉雄、梅本 芳夫、矢尾 太郎、坂 瑠、中村 俊一、中村 正雄、福地 芳則、多和 敏一、白山 任男、小森 富夫、松島 税
- 第二会場演題及び演者
- 一、コバルトクロム合金線の緻密性について 二瓶 一郎 (理工)
- 二、歯科薬剤が細菌細胞の呼吸に及ぼす影響 多和 敏一 (生化学)
- 三、歯肉出血と出血性素因 西川 敏一 (内科)
- 四、矯正学的に見た乳歯の抜去問題について 岸本 正 (矯正)
- 五、口唇の動脈分布について 谷口善之 花井 汎 (解剖)
- 六、Paraforn の薬理とその応用について 矢尾 太郎 高木順彦 (薬理)

昭和三十五年度大阪歯科学会大会

昭和三十五年十月十六日(日)

午前九時三十分から

兵庫歯科医師会館

第一会場(二階ホール)

兵歯 野球部二十七年の発展史

神戸ODC野球

クラブの思い出

名田 昌弘 (専修長田区)

兵庫歯科医師会の事業に他府部を結成し、神戸軟式野球界に異色の光を放つ。花々しく君臨し「上品でもいかにも」をあげている兵庫歯科医師会野球部。強固な野球チームとして、球部二十七年の歴史をひもといてそのらしき時代を語るのもあながち無意味ではないだろう。

いまから二十七年前といえは昭和八年、皇太子殿下ご誕生のお慶びの年でもあり、満州建國後には日本の国威上昇のころであ



写真は全盛を誇った当時のODCチーム

現在のプロ野球「巨人軍」が録し、このうち実力からいへばODCのチーム名がわが国に初め「クラフ」はAクラスに伍し、各職域で職業野球の理由をあげた年でも、この年に大南校友会同好クラブなど多量OBとも試合を通じたが、ODC野球倶楽部として親睦の役目を果たした。

品位と技量で国民大会へ

昭和十二年の日支事変以来、国民大会の旗印とともに自然洋文字が姿を消し、スポーツ界にも波及、わが「ODCクラブ」も「牧院」とチーム名を改めた。

このころ現兵庫野球部監督で、二十二年の投手経験に裏づけを添え、二十回の磯島吉之祐、柔軟なプレーで得点のチャンスメーカー二十回の一ツ町浩三の両氏が、大南大学の現役学生としてチームに加入し、その愛称オトツチやん、見事なコントロールの守と安定した投球術を心得た投手の十六回中川秀夫、中学時代から甲子園で育った野球一家の一流投手以外ならぬシートでも一流どころの十六回藤原修、当れば大きい長距離打者、あの高い兵舎の大層根をはるかに越した大南野手の印象消えぬ十六回、植田安忠、相手に少々打たれてもこの人が外野を守れば投手も安泰といわれた名外野手の二十三回繁盛重護などが続々参加してますますチーム力が強化された。

戦前毎年開かれていた明治神宮国民大会の神戸予選において品位と技量の優秀さを認められて七百チーム中から選抜三十一チームの中にわれわれも選ばれた光栄に浴し、また姫路、和歌山の陸軍病

のようは一塁送球を見せた三塁手サビスが格別よろしい……との十三回栗本京市、打ってボールが飛ばないぬらぬらりのミラクル投法、優勝当時の投手を務めた十三回の私的な面々であった。大南を卒業して間もない二十三四才から七、八才までの元氣盛り、しかも細君をそろってもらいたてのホヤホヤ運中、それが不思議にも（いまから思えば）毎日練習日には少くも雨が降る雨がグラウンドと試合相手をついては野球、野球の明け暮れ、これでは休日の家庭サービスどころではない。よもやこんな状態が太平洋戦争勃発十年間近く続いたものだと思ふ。野球部のために家庭犠牲を起したという話も聞いたことがない。これもひとえに封建時代の恩恵？ かも察せられるがそればかりとはいえない。陸軍の……試合をしたあの奥さんへのでもない。

永々不変の野球精神

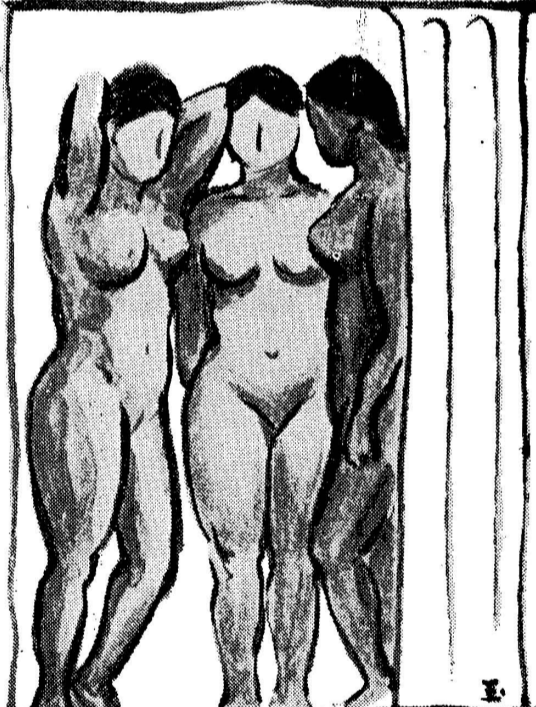
要は野球を通じてスポーツマンとしてのフェアプレーとチームワークを貫き、優勝を目指して光栄への道に魂を燃やし、少年らしい明らかな情熱と感動をいつまでも持ち続け、歯科医会として、会が統々参加してますますチーム力が強化された。

戦前毎年開かれていた明治神宮国民大会の神戸予選において品位と技量の優秀さを認められて七百チーム中から選抜三十一チームの中にわれわれも選ばれた光栄に浴し、また姫路、和歌山の陸軍病

明石支部総会を開催

昭和三十四年度大南校友会明石支部総会が六月十九日午後二時に、明石市東区大南町の明石支部会館で開かれ、出席者は十二名で午後三時から懇話会が行なわれた。このあ

戦後復活の昭和二十一年から今までの十四年間、国情の変化も



え・玉川義男

帰省

長田区・佐本 洛木

しづかにも時さかのぼる帰省かな
 鯖火もゆ熊野漁師のこころの火
 晴火の陣ややにやりしかとおもふ
 嶺に生れ発ちゆく雲や 夜の秋
 夕風のながれにふえぬ 赤蜻蛉

来春「諏訪山放言」出版

竹中氏の思想全ぼう集

参院出馬以来東奔西走して、斯界に割いて各関係機関紙に寄稿しているが、このたびはそれらの随筆、評論、参院本会議における代表質問、社務委員会の発言などをまとめた出版されることになった。

竹中恒夫氏の筆名と博識は有名で、この中には政治、評論、随筆など「ユトモア」と「ニューアンス」に寄った内容も第一部「諏訪山放言」、第二部「参院本会議での代表質問」、第三部「社務委員会の発言」、第四部「随筆」と四部に分けた。第一部「諏訪山放言」の御面的なもののみかたを第二部、第三部、第四部によってそれぞれ熟知する仕組みになっており、表裏一体たる構成のみをみてその出版が待たれるものである。

なお予約限定出版であるので希望者は兵庫事務局まで申し込みは早い。予価は五百円。



竹中恒夫著

「諏訪山放言」

A5判 上質紙約250頁 装釘 玉川義男

参議院議員であり、兵歯名誉会長の著者が戦後の歯科界の諸問題をはじめ、国政の第一線に参画した体験から歯科医政、国政にふれて書き綴った評論集。時事問題を捉えた鋭い洞察力とともに洒脱な随想は最近約十年間の歯科界の変遷を語るにふさわしい絶好の読物である。

予約出版

予価五百円

申込みは

兵庫県

歯科医師会へ

十月末日締切り